



## いしおか



石岡第一高校 社会科教員  
富所 克哉さん

令和4年10月末から令和5年3月末まで、約5か月間育休を取得した富所さん。男性の育休取得についてお話を伺いました。

撮影場所：SECOND café  
男女共同参画通信いしおかVOL.2掲載  
詳しくはコチラ→



## ◆ 育休に関心を持ったきっかけは？

差別や抑圧のない民主的な社会の担い手を育てるために教員をしています。そのためもととジェンダー平等に関心があり、学校でも性別役割分担を解消すべきだという授業をしてきました。しかし以前は月100～180時間の時間外労働しており、このままでは家事育児参加は不可能で、生徒たちに伝えてきたことを自分自身で破ってしまうと思い、男性の育休取得に関心を持ちました。

## ◆ 育休を取得した理由を教えてください

子どもの祖父母も現役の共働きで、妻の完全ワンオペ育児になってしまうため、産後うつリスクから妻を守りたかったのが一番です。また、赤ちゃんでいるのは一瞬なので、子どもが成長する姿を見逃したくないと思いました。加えて、2022年の日本のジェンダー・ギャップ指数は世界146か国中116位でした。社会科教員として、男性が育休を取得する姿を生徒たちに見てもらおうと、男女格差の是正に向けたロールモデルになりたいという思いもありました。

## ◆ 育休を取得した際のまわりの反応は？

管理職や同僚から予想以上に好意的に受け入れてもらえ、たくさんのサポートをいただきました。とくに女性は、ご自身の育児が大変だった経験をもとに育休取得を応援くださり、勇気をいただきました。担当の授業でもほぼ全ての生徒が「もし将来子どもを生むなら育休を取得したい、取得してほしい」に挙手をしていました。

## ◆ 育休を取得してよかったことは何ですか？

妻を支えられたことです。生後2週間～1か月には産後うつリスクが25%（4人に1人）まで高まります。でも夜間のおむつ替えやミルクを私が担当でき、妻の6時間以上の睡眠を確保できました。男性でも「母乳をあげる以外すべて」の家事育児ができるので、常に協力して子どもと向き合うことができました。それから、石岡市内のいくつもの子育て支援センターに出かけ、スタッフの方々や先輩ママたちに育児の情報を教えてもらいました。子ども図書館で絵本を借りたり、夫婦で保育園見学に行けたりしたことよかったです。

## ◆ 育休取得を考えている方へひとこと

人類史の研究では「母親が孤立して育児をしたことは人類の歴史上にはない」ことがわかってきています。ワンオペ育児は異常事態なのです。長期の育休が難しくても、産後うつリスクが極めて高い2週間～1か月だけでも取れば、家族を守る可能性が高まります。また男性が育休を取得すると、育休期間のみならず長期にわたって家事育児時間が増えるデータがあります。勇気を出して育休を取得すれば家族に長期的な好影響をもたらすことは間違いありません。

男女共同参画通信では、男女共同参画の推進という視点から石岡市で活躍されている方を紹介しています。この人を紹介してほしい、こんな活動をしている人がいる、といった情報がございましたら、政策企画課までご連絡ください。

# 育休取得レポート

富所 克哉 編集：石岡市政策企画課



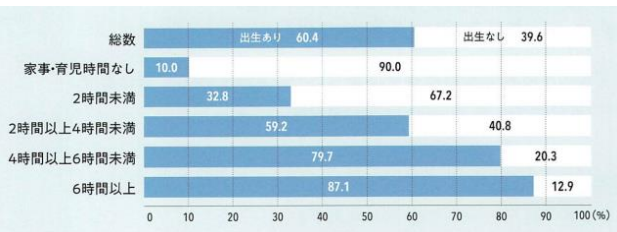
なぜいま男性育休が注目されているのか、データとともにご紹介します。

## 男性育休は少子化問題の突破口

2015年には100万人以上あった日本の出生数は、2022年には80万人を下回りました。わずか7年で20%の減少、国の推計を超える強烈なスピードです。2030年代に入ると、若年人口はさらに現在の倍の速さで減少するとも言われます。こうした深刻な少子化問題の突破口として、男性育休が注目され、取得推進の動きが急加速しています。

## 夫の家事育児参加と第2子以降の出生状況

夫が休日に家事育児をしないと10%の家庭でしか第2子以降が出生しませんが、6時間以上の家事育児をすると87.1%の家庭で出生します。男性が家庭に進出することは、少子化対策に直結します。



(厚生労働省「第14回21世紀成年者縦断調査」)

## 知っておきたいデータ

### ◆女性が産後うつになる割合

10.8% = 10人に1人。

とくに産後2週間～1か月は25.0%

= 4人に1人が産後うつの高リスクに。

⇒パパが育休を2週間～1か月だけでも取ることができれば、リスク回避につながるはず。

ホルモンの乱れ、  
2～3時間おきの授乳による睡眠不足、不安、孤立...



### ◆男性の産後うつ（パタニティブルー）の割合

11.0% = 意外にも女性と同程度。

⇒パパの育児参加は当たり前になってきたが、職場での働き方は変わらず。仕事も育児も頑張るパパが高リスク。

◆日本の男性育休制度は、ユニセフの世界ランキング1位。男性の育休取得可能期間の長さは世界最高水準であり、かつ給付金ありの期間が世界最長。

⇒優れた制度なのに取得率は13.97%（2021年）

〔出典〕  
加藤承彦ほか「父親の健康状態および育児参加の効果に関する研究」2020年  
久保隆彦ほか「妊産婦のメンタルヘルスの実態把握及び介入方法に関する研究」2014年  
ユニセフ「先進国の子育て支援の現状」2021年

## 過去3年間の各公務員の育休取得率は？

	2019	2020	2021
国家公務員	16.4%	29.0%	34.0%
茨城県職員	18.9%	44.4%	59.4%
茨城県教員	3.1%	記載なし	6.7%
石岡市職員	9.1%	11.8%	20.0%

3年間での急上昇に驚く。教員のみが低水準だが、県は2025年までに100%の取得を目指すしている。

〔出典〕

「国家公務員の育児休業等の取得状況のフォローアップ」2022年12月  
「茨城県職員子育て応援・女性活躍推進プラン」に基づく取組の実施状況等の公表について」2022年9月  
「茨城県教職員子育て応援・女性活躍推進プラン（全体版）」2021年4月  
「茨城県教職員子育て応援・女性活躍推進プラン」に基づく取組の実施状況等の公表について」2022年9月  
石岡市男女共同参画審議会「男性職員の育児休業等取得にむける取組みの現状」2022年8月

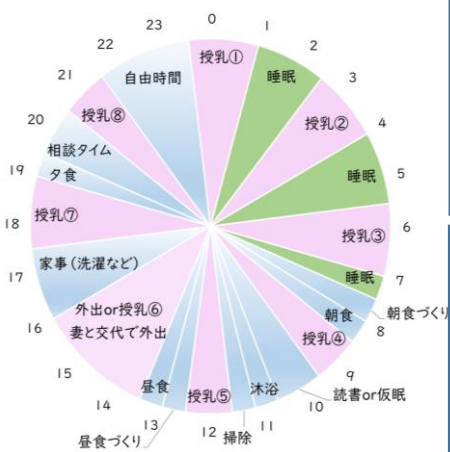
## 男性育休ニュース - 制度がどんどん改革されています -

- ①本人または配偶者の妊娠・出産の申し出をした労働者に対して、事業主が育休の制度や給付金について、「個別の周知」をし、育休を取得する意向があるか「意向確認」をすることが「義務化」されました（罰則あり）
- ②従業員1,000人超の企業は、育休の取得状況を「公表」することが「義務化」されました（罰則あり）
- ③産後の一定期間、育休取得時の給付率を「手取り10割」に引き上げると発表されました（現行は8割程度）
- ④男性の育休取得率の政府目標を「2025年度に50%」、「2030年度に85%」へ引き上げると発表されました  
⇒男性育休の取得率はここから数年で飛躍的に上昇し、将来的には取得することが当たり前になるでしょう



## 育休取得の体験レポート

生後0か月の生活スケジュール



### 育休取得時に意識したこと

- 「早めに、自分の口で伝える」
- 「育休後の仕事を前倒しで」
- 「誠意をもって引き継ぎを」



### 生後0か月の生活

- 「母乳をあげる以外すべてやる」
- 「妻に6時間以上の睡眠を」
- 「家事スキルを上げる」



### 育休中にできたこと

- お世話：**母乳以外のすべての家事育児、絵本の読み聞かせ、育児書を読む
- 手続き等：**保育園見学、健診・予防接種、家計の見直し（教育費・保険）
- お出かけ：**子育て支援センター、旅行、子ども図書館、美術館、博物館  
⇒子どもの成長に立ち会えて、家族で大切な時間を過ごすことができました。



# 令和4年度 男女共同参画事業セミナー 開催報告

## 出前講座

石岡市では、児童・生徒を対象に男女共同参画をテーマにした出前講座を実施しています。

### 性別にとらわれない、能力を生かした職業の選択について

日時：令和4年7月1日（金）  
対象：石岡第一高等学校2年生

講師：鹿島建設株式会社 土木管理本部 土木企画部  
人事・教育グループ 専任部長  
(建設産業女性定着支援ネットワーク幹事長) **須田 久美子 さん**



▲須田さんのお話を真剣に聞く高校生の皆さん。「性別にとらわれずにやりたい仕事につくのはかっこいい」といった感想が寄せられました。

女性が少ない建設産業の現場の中で、ドボジョ（土木女子）として長年活躍してきた須田さん。出産や育児などのライフイベントを経ながら女性技術者として働いてきた経験などをお話いただきました。

また、これから職業を選択する高校生へ向けて、「好きなこと・没頭できることを見つけ仕事を楽しむこと」「夢をあきらめないこと」など、仕事を続けるコツを伺いました。

#### 💡建設産業女性定着支援ネットワークとは・・・

建設産業で働く女性の入職促進、定着を図ることを目的に2018年度に設立。全国各地に組織されている、女性の定着を推進する活動を行っている団体によるネットワークを構築しています。

## 石岡市さわやか ハーモニーセミナー

石岡市では、男女共同参画について学べるセミナーやワークショップなどの啓発活動を行っています。

### LGBTQ講演会～お互いの性を尊重し合える共生社会を目指して～

日時：令和5年2月25日（土）  
場所：石岡市役所201・202会議室

講師：LGBTQ団体にじっぺ茨城代表  
**永瀬 大紀 さん**



💡「にじっぺ茨城」とは・・・  
茨城県を中心に活動しているLGBTQ団体。



同性愛や性別違和に関する専門相談員、LGBTQに関する講演や執筆、居場所づくりなどの活動을 精力的に行っている永瀬さん。

ご自身の経験も交えながら、LGBTQに関連する用語や、性別という枠にとらわれずに、一人ひとりの個性を認め合うことの大切さについて、わかりやすくお話していただきました。

#### 💡「LGBTQ」とは・・・

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア・クエスチョニングの頭文字を取った、性的少数者の総称の一つです。

▲当日、会場はお客さんでいっぱい。講演の様子は、後日、視聴希望者向けに、YouTubeで限定配信されました。

